

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科		
科目名称	子ども教育専門ゼミⅡ					授業形態	授業形態	講義		
科目コード	750115	単位数	2単位	配当学年	配当学年	実務経験教員	実務経験教員	アクティブ ラーニング	○	
担当教員名	若宮 邦彦							ICT活 用		
授業概要	<p>この授業の目的は、現代の社会における子どもや家族が抱える問題や課題、児童福祉の様々な援助に関する文献を学生自身が収集し、内容を理解し、発表・討論を行うことです。</p> <p>専門ゼミⅠで習得したフィールドワークによる調査・研究手法をもとにして4年次に取り組む卒業研究において、必要となるテーマに関する基礎的文献を各自紹介する。論文から専門知識を深めるとともに、論文の構成、統計的手法についても習得することを目指します。</p>									
関連する科目	子ども教育専門ゼミⅠ、入門ゼミ、プレゼミ、卒業研究									
授業の進め方 と方法	<p>アクティブラーニング型授業を展開する。学生自身が専門ゼミⅠで学んだ問題意識や課題とするテーマについて、より深く考察するための探究能力を高めます。また、ソーシャルワーク理論とスキルの学びを深めるために事例検討やフィールドワークを通じ、理論知を実践知に関連付けながら理解します。</p> <p>さらに卒業研究のためのテーマ設定、研究方法の明確化につなげていきます。</p>									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 卒業研究のスケジュール確認、プレ調査、研究計画の立案指導。									
授業計画 【第2回】	各自の問題関心の所在、背景の確認をふまえ研究テーマを論考します。									
授業計画 【第3回】	各自の問題関心に基づいたテーマの設定 各自の問題意識を研究の視座へと発展させ、卒業研究のテーマ設定をします。 研究方法に応じたツールの確認、対象の検討を併せて検討します。									
授業計画 【第4回】	文献・先行研究の収集。 各自の研究テーマに応じた先行研究・公的データ等資料の整理を行います。									
授業計画 【第5回】	文献・先行研究の整理 設定したテーマに関連する論文・著書・法制度に関連する資料を収集し総論と各論の整理をします。									
授業計画 【第6回】	各自の問題意識に基づいた文献の報告と質疑応答① メンバー間での発表、質疑を展開し、自らの問題意識を再考します。									
授業計画 【第7回】	各自の問題意識に基づいたテーマ・研究目的・方法等の報告と質疑応答② 再度、研究目的に応じた論点の整理と研究方法・対象を確認します。									
授業計画 【第8回】	ふりかえりと中間報告 文献レビューしたものをレポートにしゼミ内で発表し、質疑応答やディスカッションをし学びを深めます。									
授業計画 【第9回】	研究計画発表 各論の整理とともに研究課題を明確にし、今後の文献研修やフィールドワークの計画を立案します。さらに個別の研究テーマに応じた研究方法の整理、具体的展開を学びます。									
授業計画 【第10回】	個別研究指導① 中間発表会資料作成についてのアカデミックスキル、プレゼンテーション指導。									

授業計画【第11回】	個別研究指導② 個別の研究テーマに応じたレポートの書き方、調査データの分析、プレゼンテーションの方法等を確認し、相互理解を深めます。中間発表会における教員、参加者からの意見を整理し、改善につなげます。
授業計画【第12回】	報告会① 個別研究指導、中間発表会での学びを整理し、メンバー間で意見交換を行います。
授業計画【第13回】	報告会② 報告会①の研究内容を抄録とパワーポイントデータにまとめプレゼンテーションを行い質疑応答により内容を深めます。
授業計画【第14回】	卒業研究論文の推敲を重ね、審査会に向けての抄録。発表データの作成を行います。
授業計画【第15回】	副査教員に卒業研究論文執筆の進捗状況を報告し、指導を受けます。ゼミ教員からの指導、メンバー間での議論をふまえ推敲を重ねます。
授業の到達目標	1. 子ども教育専門ゼミ I で深めた問題意識を学術的に整理し、理論的思考力を高めます。 2. 専門ゼミ I で習得したような研究の基盤となる力をさらに向上させていくのはもちろんのこと、レポート作成やグループディスカッションを通して、プレゼンテーション能力向上やクリティカルな思考を高め、専門的知識を深めていくことを目指します。 3. ボランティアやフィールドワーク等での体験知を深め、研究の基礎へと結びつけるための討論や発表能力を習得します。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	各自の研究の進捗状況に応じて指示を行います。
授業時間外学習【復習】	各自の研究の進捗状況に応じて指示を行います。
課題に対するフィードバック	課題については、ゼミの中で解説します。
評価方法・基準	討論や文献・情報収集への取り組み姿勢・態度およびレポートや報告の内容等で評価します。
テキスト	特に定めず、必要に応じて資料を配布します。
参考書	白井利明・高崎一郎 著 「よくわかる卒論の書き方」第2版 ミネルヴァ書房 田中恭子 編 「よくわかる学びの技法」第2版 ミネルヴァ書房
備考	